

★日本国という「状態」は個人の尊重という大原理で規定されている、ということになる。そして、この個人の尊重という大原理から、国民主権、人権尊重、永久平和という原理が導き出され、この三原理もまた、日本国がどういう状態であればいいのかを決めている。

↓「個人の尊厳」、これが大原則。「市民連合」は、「安保法制の廃止と立憲主義の回復、そして個人の尊厳を擁護する政治の実現を目指すこと」を求めています。

★ 私たちが今日、明日、明後日と、「国の言う通りにはなりませんよ。」私たちが私たちです。「会社の言う通りにはなりませんよ。おれの運命はおれが決めるんだ」と頑張っていけば、ひよっとしたらそういう世界的な大きな動きが一つになって、何か奇跡が起こるかもしれません。そういう奇跡に私も賭けます

↓ 文部科学省や管理職の言う通りにはならない。「おれの運命はおれが決める」と、頑張り続けてきましたがまだまだです。自分で作った「市民としての作法」ですら守れていないことが幾つもあるのですから★ 私は、「平和を守ろう」「憲法を守ろう」と言うときに何か言葉が

空転するような気がして仕方がありません。そこで、「平和」という言葉を「日常」に言い換えたらどうかと考えています。さきほど大江健三郎さんが「自分は小説家であるから」とおっしゃいましたが、芝居を書いている立場で言いますと、芝居の中で「平和」という言葉を使うと、実はその瞬間、観客はそれ聞き飛ばしてしまうのですね。あまりにも使われすぎて、言葉としての力を失ってしまっているのです。そこで、いろいろな言い換えをしなければいけないのですが、私はこれを「日常」に言い換えています。つまり、「平和を守る」「憲法を守る」というのは、「私たちのいま続いている日常を守ることだ」と言い直すようにしています。友達と会う。会ってビールを飲む。家族と旅行へ出かける。いろいろお喋りをして楽しく過ごす。勉強する。すべてこれ日常ですが、これができなくなる。そういうことを防ぐために、私たちは自分たちの日常を守るために頑張りていく。その日常の先に子どもたちや孫たちがいて、その人たちが次の時代を受け取っていくのだ、と考えています。↓「言葉が空転するよな気がして仕方ありません」

私も、街頭宣伝や集会・デモで同じことを感じていた。だから、多くの人々に伝わらない。それなのに、まるで自己満足のような演説・スピーチを繰り返している。「日常を守る」。これならば、誰もが納得できる。それを、道行く人々の年齢に合わせながら具体的に語る。そういうスピーチを心がけていきたいものだ

★ ジェット機から翼を取ったら粗大ゴミで、自動車からハンドルを取ったらただの鉄の箱である。日本国憲法からその本質を盗み取られたのでは、日本国憲法ではなくなってしまう。そこで改憲論者たちに進言する。もういい加減にして、「わしらは日本国憲法を日本国憲法ではないなにか別のものにしたいのだ。これは革命だ。クーデターだ。覚悟しろ」

↓なるほど。例えがいい。こういう例えをふんだんに使い、「改憲」ではなく「壊憲」であることを分かりやすく使える宣伝をしていきたいものだ。「百聞は一見に如かず」。まずはこの本を読んでみて下さい。願わくば、井上ひさしさんの書かれた数々の傑作を一冊でも多く読んで欲しい。また、上演される劇も観て欲しいものです

憲法九条改悪反対の署名集めでのエピソード

☆三月二十五日：長良ピアゴ前では高校生が署名してくれたり、若い人たちの反応があったことが印象に残っています。

☆四月二十日：サンマート前では関心を持つ人は少なく署名数は十にも満たない状況でした。そんな状況下で、

八十歳代の男性曰く「六兆円でも軍事費はたりない。増額しないとロシアに北海道をもとられてまうぞ」だって!!



次回の署名集めは

五月二十四日(火曜日)

ピアゴ長良店の前です。

雨天の場合は二十七日(金)

になります。